

会 議	令和5年度 第2回幸田町総合教育会議
日 時	令和5年11月2日(木) 開会 午前8時55分 閉会 午前10時
場 所	幸田町役場4階 第3第4委員会室
構 成 員	町 長 成瀬 敦 教育委員会 教育長 池田 和博 教育委員会 委 員 伊藤 秀雄 教育委員会 委 員 壁谷 昭代 教育委員会 委 員 中西 雅俊 教育委員会 委 員 穂吉 沙織
欠 席 構 成 員	なし
傍 聴 者	なし
構成員以外の出席者	副 町 長 大竹 広行 企 画 部 長 成瀬 千恵子 企 画 政 策 課 長 柴田 淳一 企 画 政 策 課 主 幹 石川 純子 住 民 こ ど も 部 長 三浦 正義 こ ど も 課 長 鈴木 雅也 学 校 教 育 課 長 山崎 二郎 学 校 指 導 担 当 課 長 小嶋 智香 学 校 教 育 課 長 補 佐 近藤 京子 教 育 部 次 長 兼 文 化 ス ポ ー ツ 課 長 夏目 守雄
会議に付した案件	○議題(1) (仮称)幸田町郷土博物館の建設について ○議題(2) 子育て応援・家事サポート事業について
決 定 事 項 及 び 主 な 意 見 等	○議題(1) ・もう一度足を運びたくなるような博物館にしてほしい。 ・教育現場との連携についても検討してほしい。 ○議題(2) ・急に必要になった時の対応や利用時間の上限について再考してほしい。

令和5年度 第2回幸田町総合教育会議 議事録

発言者	主な発言内容
企画部長	○開会の言葉
町長	<p>○挨拶</p> <p>今年度2回目の総合教育会議を開催させていただく。本当に好天が続いき、久方ぶりに各学校では運動会を行っており、幸田小学校、中央小学校、坂崎小学校を見させていただいた。たくさん子どもたちの活躍の姿をいろんな角度から見て、コロナの関係でなかなかできなかったが来賓を招きながら開催できるということはとても良いと思う。</p> <p>インフルエンザの影響など学級閉鎖等もある。マスク等はそれぞれの方の御判断であるが、いろいろな感染症に十分気をつけて、年末年始を過ごしていただければなと思っている。</p> <p>また、文化祭も明日から始まり、最高のオバハンというドラマをもう一度そこで上映するなど、いろいろな文化・芸術、町民の方々がつくられた作品や歌などをしっかりと楽しめる、また鑑賞できるよい機会。御参加いただければと思う。</p> <p>また70周年では、予算編成をこれから始めるが、記念式典を10月19日に開催し、それとは別にそれぞれの所管課が今までに無いような事業を展開する。教育委員会では、第1回目の70周年のイベントとして開催したキウウのクラシックバレエを、幸田高校生も含めて子どもたちに見学をしていただく機会はよかった。国際平和という観点から見ても、戦争下のウクライナのすばらしい芸術を、子どもたちが見て、感動した人が1人でも多ければ、無料で開催してよかったと思っている。</p> <p>今日は、郷土博物館の関係の構想と11月から始まる子育て応援家事サポート事業について所管課から説明する。議題に建設という言葉がついているが、基本構想のため、まだ建設の具体的な話ではない。文化スポーツの施設では、まだまだ幸田町にはないものがいっぱいあり、屋外運動場や郷土資料館、体育館、武道館などつくりたいものはたくさんある。基本構想を今月の議会の協議会にかけながら、このような構想で郷土資料館つくったらどうですかということを示し、場所や費用、体育館はいつつくるのかということ、議会で意見を聞きながら確立していくことを前提に聞いていただきたい。来年の1年間で、文化スポーツ施設トータルでどうあるべきか、どういうスケジュールでつくっていったらいいか、また、それは幸田町の財政状況の中で、費用が蓄えられているか。そのような議論をしていかないと、この構想が現実化した「建設」という言葉には至らないため、その辺を十分踏まえて、今日は、審議会の皆さんが博物館建設に当たり、御検討くださった集約的な意見がまずはここまでまとまったということをお願いいただければなと思っている。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
教育長	<p>○挨拶</p> <p>おはようございます。教育委員会では働く人のための図書館講座というのを開いている。その中で、世界各地を旅しているエッセイストのたかのてるこさんに本のタイトルと全く一緒の「世界は、愛でできている」という講演をしていただいた。本を読ませていただいたところ、「朝、目が覚めて生きているということは、体中の全細胞が頑張ってくれて、生きとし生けるものが、命を与えてくれて、数え切れない先祖が命をつないでくれたから。どうもあなたはとんでもない量の愛に支えられているということ。」という文章があった。総合教育会議で博物館についてのお話をするということ考えたときに、この「数え切れない先祖が」というのが、きっと幸田町の先人が</p>

	<p>どのように生きてきたか。過去の幸田町がどのように現在まで形づくられてきたのか。そういったことが、博物館の中で明らかにできることだろうな。今につながる私たちが、次に引き継いでいくという意味で、博物館が今後進んでいく意味を、この本と総合教育会議を結びつけて考えた。</p> <p>本日のこの総合教育会議は町長のお考えと、教育委員、教育委員会としての考えを調整していく場、理解を図っていく場であるというふうに考えて、それぞれ御意見をいただいて、幸田町の一層の充実につながっていくことを願い、挨拶とする。</p>
企画部長	○総合教育会議の概要について説明
町長	○議題(1) 「(仮称)幸田町郷土資料館の建設について」 文化スポーツ課に説明を求める。
教育部次長 兼文化スポーツ課長	<p>今年度は基本構想の策定を目指し、現在、検討を進めている途中。基本構想の策定は、株式会社丹青社に委託をしており、有識者の意見を伺いながら進めている。博物館の必要性については、現在の幸田町郷土資料には課題が多い。築46年を経過し、かなり老朽化が進んでいる。バリアフリーでないこと、男女共用のトイレ、スリッパでの入館など来館者の快適な滞在に困難がある状況。また、施設に十分な収蔵展示スペースがなく、温湿度、照明管理が適切でないことから、博物館機能を持ち合わせていない。これらのことから、幸田町にある貴重な資料を保管、展示することも、ほかの博物館などから資料を借用し、展示することも出来ない状況。結果、子どもたちに幸田町の歴史、文化に触れる機会を与えられない現状がある。このようなことから、博物館の建設について町としても、考えていかなければならない。</p> <p>基本構想とは、建設の必要性の合意形成を踏まえ、建設の実現に向けての規模や機能などの内容、設計に向けての条件とともに、施設に複合させるという周辺施設の計画などをまとめるもの。設計の前提となる基本的な考えをまとめたもので、その内容については調整途中だが、抜粋してお示しする。まず、建設予定地は、ハピネスヒル幸田の区域内で考えている。近くに図書館などの文化施設があることで、より充実した事業展開が期待できる。次に、博物館に期待される役割を三つ掲げている。一つ目は、点在する文化資源のハブ機能として、歴史文化の中央センター的な役割。幸田町には多くの文化資源があるが、町としてその歴史、文化的価値が十分に発信されていると言いつらい状況。新博物館は、町内の文化財、文化資源やその情報の収集、調査研究を行い、これらの所有者や管理者などと連携しながら、総合的な見地から、その価値を分かりやすく、魅力的に発信するハブ機能を担う。二つ目は、郷土幸田町への誇りを醸成する場として期待される。新博物館は、社会教育施設として、次代を担う子どもたちや、町民、また、新たに幸田町に住まれる方々に対して、町の歴史、文化を理解してもらい、郷土幸田町への愛着、誇りを育むための施設とする。三つ目は、出会い、学びが幸せにつながる場。デジタルを効果的に生かしながら、実物資料、リアルな体験、本物との出会いと学びにより、豊かな生き方幸せにつながる場とする。よって新博物館は、重要な文化財などを公開、展示可能な公開承認施設を目指す。公開承認施設とは、国宝や、重要文化財を公開したい場合、文化庁の許可が必要となるが、展示の環境や展示実績など、文化庁が定める厳しい基準を満たす公開承認施設と承認された場合、その後の展示については、届出だけで足りてしまうという施設。</p> <p>基本理念は、先ほどの期待される役割を担う施設として、事業活動や建築、展示の計画や設計、運営体制などにおいて中核となるもので、「幸田の歴史と今を再発見し、みんなが幸せになる未来を探求する」としている。事</p>

	<p>業活動として展開する内容は、未来への町民共有の遺産として後世に引き継ぐための資料収集保存、資料の学術的な調査研究、多様な資料の公開、常設展示、企画展示、ギャラリー展示を企画する中で、本物との出会いを軸にしながら、誰もが楽しめ、理解につながる展示を行う。また、活動によって得られた情報を様々な形で発信し、町民の皆様に親しまれる博物館として、長く愛されるよう事業を展開したい。</p> <p>基本構想の本編は、A4の用紙で50ページ程度になるかと思われるが、まだまだ検討・調整が続く。今年度中には、パブリックコメントを行ってまとめていく予定。</p>
町長	○説明に対する意見聴取
伊藤委員	<p>○意見</p> <p>教育委員会の視察で島原に行きわかったことは、島原は、非常に歴史を大切に、自分の土地に対して誇りを持っていること。深溝松平の関係について本当に大切にされていた。それに対して幸田町の場合は、深溝松平について深溝学区の方はある程度わかるが、他の学区にはあまり知られていないように思う。大切な歴史上の人物がたくさんいる。文化財も非常にたくさんあるので、ぜひ重要なものとして深溝松平を幸田町の歴史として位置づけていただきたい。</p> <p>特に、小学校中学校生には、直接歴史に触れ、深溝松平が中央の政治と関わっていたことや、わざわざ島原まで行って、しかもずっとご遺体をこちらまで運んで、それほどまでに大切にされた人がいるということ、ぜひ伝えていきたい。それが、自分たちの郷土に対する誇りになるのではないか。</p> <p>博物館には大きな意味がある。いい博物館をつくっていただきたい。日常的に触れられるような形や、学校からも行って、学んでいただきたい。</p>
町長	<p>新しい博物館構想も教科書にも出てくるような出来事と関連したものから興味を持ち、前後の歴史をだんだん知りたくなっていくといい。しかし、幸田の歴史は深溝松平だけではないので、島原、深溝松平の歴史を郷土博物館の一つの核とすることについて、委員会でどのような意見が出たかも含めて事務局に意見を求める。</p>
教育部次長兼文化スポーツ課長	<p>深溝の本光寺は、国指定の文化財になっている。広く町民に知らせる必要がある。</p> <p>それを博物館では取り上げことになるが、現在の資料館では、規模的な面や資料を展示するための温度管理指導管理がしっかりできないため、発掘調査で出てきたものも、他の施設で管理してもらっている状況。幸田町で出土したものが、幸田町で展示できないというのはやっぱり残念で、町の歴史が町民に伝わらないというのはもったいない。</p> <p>ハッピーネスヒルの中で建設という理由の一つは、図書館に近いこと。博物館とかで見てものには何か疑問があれば図書館に行ってまた調べられるため。幸田町の歴史、文化財、産業遺産も含めて、今はうまく発信できていないが、この博物館建設によってしっかり調整をしたい。</p>
教育長	<p>博物館の検討委員会で出てきた御意見としては、今の資料館では、幸田町を通史的に古代から現在までを見るのが難しい。展示してあるものを見ても菱池コーナーあるいは深溝断層コーナーなど、コーナーごとに断片的に知ることはできても、全体の通史を眺めた上で一連ものとして学ぶ場がないのではないかとこのものがあり、また、幅広く幸田町のことを知りながら、その中で重点的にコーナーごとに学べるようにすると、幸田町のこれまでの歴史や文化がより分かるというような御意見いただいた。</p>

町長	郷土博物館ができた時には、島原の松平文庫の資料や本光寺の立派な地などが借りられるようになり、それだけで十分な企画展もできるのではないかな。
壁谷委員	○意見 私自身が、深溝松平のことを聞いたことや見に行ったことはあったが、歴史にはあまり興味を持っていなかった。大河ドラマをきっかけに少し影響を受けて、歴史に興味を持ち始め、少し調べてみようかなと思っている。実際に触れることがきっかけになると思う。
中西委員	○意見 郷土資料館に関しては、教育委員視察で八女と中津に行った。両方とも核になるものがあり、八女には隣に大きな古墳があった。中津には、中津城があった。博物館と核になるものが、隣り合わせにあって、それで、成り立っていた。幸田町は、深溝松平の本光寺は一つの核になると思うが、資料に書いてあるハブ機能について考えると、図書館と隣接させると説明されたが、実際に物を目で見て確認できることが大切で、資料だけのハブにならずに、現地を訪れたいような工夫していただきたい。 展示の内容は、次世代の子どもが来て勉強するような工夫がされていて、ただ壁に展示してあるのではなく、低い視線でも物が読み取れるような工夫などがされていたので、今後そういったものも研究されて、博物館の計画を進めていただきたい。
町長	事務局から、検討委員会で場所や見せる工夫について御意見等があれば紹介してほしい。
教育部次長兼文化スポーツ課長	場所や展示の仕方については、今後検討していく。いただいた情報を検討委員会で報告する。
穂吉委員	○意見 島原の視察では、ただ見て回るだけでは、魅力は感じなかったと思われることも、プラスアルファの情報があることによって、より理解も深まると感じた。どんなすてきな施設をつくっても、どんないい施設をつくっても、そこに足を運びたいようなことがないと、その機能は発揮されないで、行きたくなる施設、企画が重要。足を運んでもらわないとその施設の魅力が伝わらない。もう1回あそこに行きたいと思わせる施設になるといい。深溝松平のことを常設するということであれば、事前に学校で学んで、ある程度の知識を持っていると、より関心を持って展示を見られるのではないかな。予備知識を持って、子どもたちがそこに参加できるように教育の場でも連携して仕組みづくりをするとよりいいものになるのではないかな。
教育部次長兼文化スポーツ課長	教育現場との連携のためにも有識者として深溝小学校の岩下先生が委員会に含まれている。現状は、学芸員の職員がそれぞれの学校からの依頼を受けて幸田町の歴史を話す取り組みをしているが、博物館に来てもらって、そこで本物の資料を見ながら説明すると魅力や歴史がしっかり伝わる。今後も有識者の御意見も伺いながら、魅力のある博物館の建設を目指す。
教育長	この博物館の検討でよく出てくるキーワードが、わくわくとかどきどきするような空間。ただ展示が並び、難しい説明があっても興味が湧かない。例えば、入り口に映像や体験的なものがあって、これって何だろうというような形で中に入っていく。そういう工夫が子どもには必要ではないかというもの。また、いつまでも同じようなものを勉強しているだけでは飽きてしまうので、内容を変えて、また見に行きたいと思わせる工夫が必要など、多く意見をいただいている。有識者は、博物館のことに詳しく、博物館の成功例や

	<p>失敗例もよく御存じである。こういう博物館はいいと思っても失敗するよいった具体的なアドバイスもある。とにかく分かりやすいもの。それから、大人から子どもまで、わくわくドキドキするようなものを目指すといいということ検討している。</p>
壁谷委員	<p>○意見</p> <p>予算的に難しいかもしれないし、資料の有無も分からないが、幸田には深溝城というお城があった。深溝城を復元して幸田町にお城ができれば、わくわく感につながると思った。</p> <p>郷土資料館の期待される役割の中で、出会い学びが幸せにつながる場と書かれている。博物館に行くと何が幸せになるのかなと思ひ、この幸せがひっかかっている。抽象的過ぎるので、先ほど言われたみたいにくわく感や豊かさなど、何かそういう言葉に置き換えると理解されやすいのではないかと。</p>
町長	<p>○議題(2)</p> <p>「子育て応援・家事サポート事業について」</p> <p>こども課に説明を求める。</p>
こども課長	<p>事業の目的は、妊婦や小さな子どもを育てる保護者は、日々の調理や掃除などの家事が大きな負担となっていることから、子育て応援の一環として、家事の支援を行うこと。対象者は、妊婦と小学校就学前の子どもを育てる保護者で、登録料は無料だが事前の登録手続が必要。受託事業者は幸田町社会福祉協議会。家事サポートの内容を例に挙げると、1 点目は食事の準備や片づけなど食事関係でこれには調理も含む。ただし、大量の調理や特別手間のかかる正月料理などが不可。2 点目は衣類の洗濯、衣類の簡単な繕いもの、宅内の掃除など家事関係。掃除は、リビングやトイレなど掃除機を使った掃除や拭き掃除などの簡単な清掃を想定している。3 点目は、生活用品の買物。近隣のスーパーでの食材や商品の買物を想定。申請から利用までの流れは、まず初めに、利用者は上六栗子育て支援センターで面談の上、登録申請を行う。申請は、利用希望月の前月 15 日まで。申請受け付けは毎週木曜日。申請をすると町から利用者へ利用登録の決定を通知する。決定通知を受けたら利用者が希望する支援内容を上六栗子育て支援センターから社会福祉協議会へ依頼し、利用者は社会福祉協議会へ日程調整の連絡をすると、日時と決定後、社会福祉協議会から家事支援を行うヘルパーが派遣される。利用時間は、土日、祝日、年末年始を除く、月曜日から金曜日の午前 9 時から午後 5 時までのうち、1 回 2 時間以内で月 4 時間まで。利用料金は、1 時間当たり 500 円で、生活保護、住民税非課税世帯は利用者負担なしで利用できる。</p> <p>10 月 2 日から、この事業の受け付けがスタートし、11 月からサポートが始まった。10 月末現在の登録は 6 件。</p>
町長	<p>この事業は、職員が政策課題ということで提案したもので、自分たちの身近なことから政策をつくっていく大事なストーリーだと自分は思っている。提案が事業化に至り、担当課が進めている事業。今 6 件登録があるということで、登録には支援センターへ足を運んでいく必要があるが、その後は電話等で社会福祉協議会から派遣された方々に、家事サポートを行っていくということ。ぜひ、もっと使っていただくための御意見、事業を継続し充実させる御意見をいただきたい。</p>
壁谷委員	<p>○意見</p> <p>子育て支援センターには、ファミリーサポートの事業がある。今回始まる家事サポートの利用料金が 1 時間 500 円。ファミリーサポートは 700 円で、土日は 900 円。価格差は大丈夫かということとファミリーサポートと家事サポートとの混乱はないのか心配する。また、窓口が子育て支援センターになっているが、日程調整は社会福祉協議会になり、利用者さんにとってはあつ</p>

	ちとこっちに連絡しなければならず、土日は利用できないとなっているが、急に利用したいという場合の対応はどうなっているのか疑問に思う。
こども課長	<p>価格については、家事サポートを実施している近隣の自治体を参考にした。岡崎市が600円、蒲郡市が500円。</p> <p>家事サポートとファミサポの混乱については、最初に来ていただく窓口が子育て支援センターのため、内容によってファミサポへの案内や、これであれば家事サポと言った提案ができるため、混乱は少なくなると考えている。</p> <p>急な対応については難しい課題と思っている。</p>
穂吉委員	<p>○意見</p> <p>とてもいい事業だと私は思った。実際に子どもが小さい頃ファミサポを利用していたが、この事業について3点疑問がある。1点は壁谷委員が言われた急な対応ができないこと。利用日の前月15日までに申請が必要で、受付が木曜日のみのため、急に何か起きたときにこの事業は使えないのは不便だと感じた。2点目は利用時間について、ファミサポを利用しているときに、利用者さんが家を出てから帰るまでの時間で計算されたと思うが、この事業での2時間はどこを想定しているのか。作業が始まってから終わりまでが2時間なのか、ファミサポと同じような形で、家を出てから、その方が家に帰るまでが2時間なのか疑問。3点目は、月4時間までの利用が可能となっているが、どのような方を対象に考えられて月4時間なのか1番の疑問。1回2時間では、月2回までしか利用できないことになる。例えば、対象者が妊婦で、つわりがひどく誰かに御飯を作ってほしくなったとき。毎日つわりがひどいのは2週間から1か月ぐらいは続くと思うが、その間、誰かかわりに御飯を作ってほしくても、月4時間まででは最大4回ぐらいしかお願いすることができない。他にも第2子以降の出産時に、今日子どもが生まれ、明日から御飯を誰か作りに来てほしい時。入院している5日間だけ作ってほしくても利用できない。それでは、妊婦さんが頼む時は布団を干す時くらいしか思いつかない。今の制度だと、少し利用しづらいというのが私の実感。</p>
町長	利用者にとっては4時間では、ちょっと物足りないような事業内容と言う御意見をいただいたが、利用料金についてはどうか。
穂吉委員	<p>○意見</p> <p>こんな安くてやっていただけるとありがたいと感じる。</p>
こども課長	急な対応につきましては公共の事業の性質上、難しい面もあるが課題と思っている。月4時間の上限も、実態を見ながら考えていきたい。毎日来てほしいという状況はあると考えられるので、今後、改善していきたい。
町長	<p>今後もより良い事業となるように議論をしたい。</p> <p>予定時間となったので議題の審議を終わり、事務局にお返しする。</p>
企画部長	大変熱心に御協議いただき、貴重な御意見を賜りまして大変ありがとうございました。今年度の総合教育会議は以上で終了とさせていただきます。今後は緊急の事案が発生した場合等、必要に応じて開催させていただきます。
副町長	<p>本日はお忙しいところ御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また慎重審議をいただきましてありがとうございます。</p> <p>本日はですね2点、(仮称)幸田町郷土博物館の建設についてと、子育て応援・家事サポート事業について御意見をいただきました。今後の計画、実施について反映をしていきたいと考えております。以上で、令和5年度第2回幸田町総合教育会議を閉会とする。大変ありがとうございました。</p>